

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
ジャパンダートダービー	2019/7/10	JpnI	大井	2000m	ミドルペース	良	末脚の持続力

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	グリードパルフェ	牡3	56	笹川	トビーズコーナー	ノーザン系	メジロマックイーン	パーソン系	D	B	B	B	C	C		
2	2	ヒカリオース	牡3	56	山崎	フリオース	ロベルト系	サウスヴィグラス	ミスプロ系	C	B	B	B	B	B	△1	
3	3	ロードグラディオ	牡3	56	Mデム-口	キングカメハメハ	ミスプロ系	フジキセキ	サンデー系	C	B	B	B	B	C		
	4	ミュウチャリー	牡3	56	御神本	パイロ	ナスルーラ系	ブライアンスタイル	ロベルト系	B	A	B	C	B	B	○	
4	5	デルマル-ウル	牡3	56	戸崎	パイロ	ナスルーラ系	コマンス	ノーザン系	C	B	B	C	B	B	△3	
	6	トイガー	牡3	56	宮崎	ヘニーヒューズ	ノーザン系	フォーティナイター	ミスプロ系	D	C	C	B	C	C		
5	7	ホホワイトヘッド	牡3	56	本橋	ダンカーク	ミスプロ系	ステイゴールド	サンデー系	D	C	C	D	D	D		
	8	サクセッサ	牡3	56	石崎駿	アドマイヤオーラ	サンデー系	ブラックタキシード	サンデー系	D	C	D	C	D	D		
6	9	メスキータ	牡3	56	松山	ブラックタイド	サンデー系	アルカセット	ノーザン系	D	B	C	D	C	C		
	10	デアフルーグ	牡3	56	津村	ベークバド	ノーザン系	フレンチデビュティ	ノーザン系	B	B	B	B	B	B	▲	
7	11	ドウドウキリシマ	牡3	56	真島	ケーブブランコ	ノーザン系	ゴールドアリュール	サンデー系	D	B	D	B	C	C		
	12	クリソベリル	牡3	56	川田	ゴールドアリュール	サンデー系	エルコンドルパサー	ミスプロ系	A	A	A	B	A	B	◎	
8	13	ウィンターフェル	牡3	56	森	ダンノンバロード	サンデー系	プリサイスエンド	ミスプロ系	C	A	B	B	B	B	△2	
	14	ナンヨーオボロツキ	牝3	54	赤岡	キンシャサノキセキ	サンデー系	キングカメハメハ	ミスプロ系	D	A	D	C	C	C		

隊列図	見解	ラップタイム
ヒカリ ロード ナンヨ ウィン クリソ トイガ ドウド グリー サクセ デルマ デアフ ミュー ホワイ メスキ	<p>最近の大井2000mのG 1 (JpnI) は力比べの差し、追い比べになる傾向が強くと、昨年の東京大賞典、今年の帝王賞を制したのは上り最速で追い込んできたオメガパフューム。帝王賞の3着には追い込み一手の伏兵・ノンコノユメが入り、「最近の大井2000mのG 1 (JpnI) = 差し、追い込み勢強し」を改めて印象付けた。そしてこのジャパンダートダービーは、昔から差し、追い比べ勢の活躍が目立つレース。過去の勝ち馬を振り返ると、カゼノコ、ノンコノユメ、キョウエイギア、ルヴァンスレーヴなど。不器用でも能力が高く、終いしっかりと伸びる馬が勝ち切っている。今年はメンバー的にペースが極端に速くなることはなくとも、東京ダービーのように超スローペースになることはないはず。何よりも断然人気を背負うクリソベリルは新馬～兵庫チャンピオンシップまで4コーナー先頭からの押し切り。これまで通りのレースをしてくれれば、直線はやはり差し、追い込み勢に分があるレースになるのではないかと。それでは予想にいきましょう。ここも印上位3頭が有力と見る。</p> <p>本命は断然人気でもクリソベリルに逆らう余地はない。新馬→1勝クラス→兵庫チャンピオンシップと一戦毎にパフォーマンスを上げ、まだ底を見せていない馬。(以下省略)</p>	回顧 次走狙い馬

ミドルペース

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	グリードパルフェ		前走東京ダービーはミュウチャリー、ウィンターフェルらに食い下がり4着と健闘するも、インベタから内をスルスルと上がっていく、鞍上の100点満点の騎乗があつての結果。あれ以上は望めない。		
2	2	ヒカリオーソ	△1	今年に入ってから対ミュウチャリーに2戦2勝。雲取賞、東京ダービーともに展開が向いたのは事実だが、雲取賞は上り2位、東京ダービーは上り1位でまとめており、決して「展開に恵まれただけ」ではない。序盤～中盤で貯金をしっかりと作れば、直線に入っても簡単に止まることはないのではないか。		
3	3	ロードグラディオ		前走リボン賞が同日の1勝クラスの走破時計よりも遅く、レースレベルとしてはいまひとつ（タイムランクD）。典型的な前残り決着で展開の恩恵をモロに受けていたので、ダートのキャリア1戦でまだ上積みがあるかもしれないが、前走のレースだけを評価するならこの人気は不釣り合いだろう。		
	4	ミュウチャリー	○	2走前の羽田盃は上り36.9秒の豪脚を繰り出して圧勝。当時のパフォーマンスは紛れもなく本物で、差し脚が生きやすいジャンタートタービーなら再び素晴らしい走りを見せてくれるのではないかと。調教の映像を見ても、今回の方が明らかに動きが良く、その点でも楽しみが大きい。		
4	5	デルマルーヴル	△3	可もなく不可もなくだが、実績的には当然圏内。追って味があるタイプなので、本馬より人気を集めているロードグラディオよりはジャンタートタービーに適性があるのではないかと。		
	6	トイガー		2走前に1勝クラスを制すも、内枠からロスなく立ち回っての勝利。当時は相手関係にも恵まれており、ダートグレードで通用する器ではない。		
5	7	ホワイトヘッド		追って味があり、末脚堅実なタイプだが、2走前の羽田盃では勝ち馬ミュウチャリー、2着ウィンターフェルに歯が立たず。ダートグレードの一級線相手では掲示板に入るのも難しいだろう。		
	8	サクセッサ		立ち回り力が高く、小回りコースでこそ良さが生きる馬。クラシック二冠は、羽田盃8着、東京ダービー12着と良いところがなかった。今回はJRA勢のトップクラスを交えての一戦。さすがに苦戦するだろう。		
6	9	メスキータ		3走前の兵庫チャンピオンシップでは勝ち馬クリソベリルから2.1秒も離されての5着。その後の鳳雛ステークス、リボン賞も見せ場なく敗れており、ダートグレードの一級線相手ではさすがに分が悪い。		
	10	デアフルーグ	▲	前走ユニコーンステークスではまさかの敗戦を喫したが、終わってみれば、馬場差-1.4の時計の速い馬場に対応できなかった感じ。新馬～伏電ステークスの3連勝は中山ダート1800m。距離が伸びることに加え、スピードよりもスタミナが問われる大井2000mに変わるのはプラスだろう。		
7	11	ドウドウキリシマ		JRAの1勝クラス突破間近だが、今回は同世代の一級線相手。距離経験もなく、苦戦必至だろう。		
	12	クリソベリル	◎	新馬→1勝クラス→兵庫チャンピオンシップと一戦毎にパフォーマンスを上げ、まだ底を見せていない馬。前走兵庫チャンピオンシップの走破時計1分57秒3は過去10年でダントツ。現3歳世代のダート路線では紛れもなくポテンシャルナンバー1と見ていいだろう。		
8	13	ウィンターフェル	△2	クラシック二冠で羽田盃2着、東京ダービー3着と堅実駆け。勝ち味に遅いタイプではあるが、ミュウチャリー、ヒカリオーソより脚質の幅が広く、ここでもこの馬なりの力を発揮できるだろう。周りに馬がいた方が真面目に走るので、相手強化は意外と本馬にとってプラスかもしれない。		
	14	ナンヨーオボロツキ		前走高知優駿では兵庫勢からの刺客を封じ込めての勝利。関東オークスなら見せ場くらい作れたかもしれないが、JRA、南関東の一級線相手では3コーナー手前で脱落しているだろう。		